



奄美の伝統と技術で新しい物創り

有限会社はじめ商事

代表取締役 元 雅亮

弊社はそれまで家業として行っていた大島紬の製造を昭和57年12月に先代が会社にし、奄美市名瀬有屋町にて大島紬を中心に様々な製品を製造販売している会社です。

長らく全国各地の卸問屋さん、小売屋さんを通じて、お客様へ大島紬をご紹介しておりました。しかしこれからの時代を考えると、もっと近く、早く、お客様と繋がるのが重要であると思い「産地とお客様と双方向からの発信」というテーマに辿り着きました。私達ができるのは、大島紬をやることです。その製造工程を見直していき、この技術を活かして新しい発想のもと商品作りを考えることにしました。

その際頼りにしているのが、弊社専務が伝習生としてお世話になり、その後も折りに付けご指導頂いております、奄美にある鹿児島県工業技術センター（旧 大島紬技術指導センター）です。

2010年においては、大島紬の工程や道具はそのままに、素材をカシミヤ糸、織り方を工技センターで研究されていた綾織りにすることで新しい大島紬の形を模索し製作した「綾緋カシミヤストール」が、2010かごしまの新特産品コンクールで県知事賞を受賞することができました。

また、お客様と もっとダイレクトに繋がる為に考えついた「大島紬の里帰りプロジェクト」、簡単に言うと『お手持ちの古くなった大島紬を細かく裂き奄美の職人の手で新しい生地へ再生させる』ということをしませんが、この工程において懸案事項であった、新たに織り上げた生地の色落ちの問題も、工技センターのアドバイスを頂き実験を重ねることで解消することができ、この事業により生まれた「本場奄美大島紬裂き織りベスト」

は、2012かごしまの新特産品コンクールで県知事賞を受賞することができました。

この事業を行うことは、私の最も切実な思いである「織機のオサの音を無くしてはいけない」にも見事に合致します。昨今の着物離れにより、奄美でも大島紬の生産反数は減少の一途です。早急に何か策を講じなくてはなりません。当社の取り組むこの事業により、新たな機織りの仕事を生み出すことができ、織工を守ることができます。お客様においても新しい価値ある生地へ再生されますので、まさに産地とお客様双方にとって素晴らしい結果を得られることとなります。

現在、同事業は『「大島紬里帰りプロジェクト」による裂き織り生地およびリサイクル商品の製造販売』として、国から認定を受けた地域資源活用事業となっております。

大島紬を将来へ残していく為には、漫然と伝統の技を踏襲していくだけでは難しいと考えております。伝統を残しつつ新たな伝統を作っていく、そのような気概があって初めて次世代へ繋げていくことができるのではないのでしょうか。伝統は続けていくことが何よりも大事なことで、これからも精一杯努力して参ります。



綾緋カシミヤストール



裂き織りベスト